

# 特集ー観光のまちづくり

問い合わせ 商工観光課 ☎64・6021

観光を軸としたまちづくりを推進する「おばま観光局（株式会社まちづくり小浜）」の設立から5年。それまでの行政主体から、行政と各種団体および地域住民と民間事業者が協働する体制へ転換し、新たな観光推進組織による観光まちづくりが進められてきました。6年目を迎える観光局の「これまで」と「これから」をお届けします。

**お**ばま観光局は、平成22年4月に、市と民間10団体（若狭おばま観光協会、小浜商工会議所など）の出資により、第三セクター※の「まちづくり株式会社」として設立されました。これにより、従来の観光協会が誘客を行い、観光局が訪れた観光客のおもてなしの基盤づくりを行い、行政が観光施設整備に取り組みという役割分担ができ、3者が市民、事業者とともに一体となって観光まちづくりを進める体制が完成しました。

※第三セクター＝地域開発、都市づくりなどのため、国または地方公共団体と民間企業との共同出資によって設立された事業体



右上／平成22年4月に観光局を設立  
 右下／地域と連携した体験メニュー開発  
 左上／昨年は小浜体験モニターツアーを企画して、関西圏からの観光客にPR  
 左下／道の駅を拠点とした商品開発

平成22年	市と民間10団体の出資により設立（4月28日） まちづくり市民幹事会を設置
平成23年	食育ツーリズム、まち歩き観光などの商品開発や体験イベント、体験農園などによる地域活性化の取り組みを開始 道の駅「若狭おばま」の指定管理を受託し運営を開始 市民実行委員会がミチフリマーケットを開始
平成24年	「てんこもり小浜フェスタ」「小浜ふらり」を開始 市民幹事会が「里山」「まち」「海」プロジェクトを開始
平成25年	道の駅「若狭おばま」に電気自動車充電設備と連絡通路を設置 道の駅「若狭おばま」を増床リニューアル
平成26年	舞鶴若狭自動車道全線開通。道の駅の集客が増加

## 取り組み

### おばま観光局が取り組む 観光のまちづくりを紹介します

観光局では、まち全体にぎわい創出を目的に、観光を軸としたまちづくりを推進。観光振興事業の柱として

- ① 誘客プログラム開発
- ② 特産品開発
- ③ 観光基盤整備
- ④ 情報発信

を掲げて取り組んでいます。

平成23年3月12日に開業した道の駅「若狭おばま」（和久里）。指定管理者として観光局が運営し、初年の入り込み客数は35万人を達成。以後、毎年利用者数を増加させています。

観光局では、道の駅を拠点に、市内農業者や事業者と連携して、さまざまな商品を開発。また、「小浜の玄関口」として、情報を発信することで、観光客の市内への誘導を図っています。

昨年7月の舞鶴若狭自動車道全線開通により、通過点になることも懸念されましたが、全線開通後3カ月の調査では、同駅の入り込み客数が前年の同時期と比べて約20%アップするなど、効果が現れています。

### 滞在型・体験型の 観光メニューを開発



観光局では、滞在型・体験型観光を促進するために、地域や事業者、団体と連携して、観光メニューを開発。平成24年度から、それらを一つにまとめた形で提供・発信する「てんこもり小浜フェスタ」を実施してきました。

平成26年度のフェスタ（9月から11月開催）では、「鯖寿司食べ比べクーポン」や「海鮮てんはま井まつり」、「漁師体験&シーカヤック体験」など、46のプログラムが体験でき、延べ1万6千人以上の人が参加しました。

ほかにも、まち歩き観光を楽しめる「小浜ふらり」や魚料理をPRする「若狭おばまお魚まつり」などが実施されています。

観光局の立ち上げから5年が経ち、「てんこもり小浜フェスタ」など小浜のまち全体で一つになって、体験型や滞在型のプログラムを提供する事業がようやく実を結んできました。

大切にしているのは、お店やイベント、祭りなどの素材を「横につなぐ」と。そして、語り部さんなどの人やパンフレット、インターネットを通して、外部の人に「紹介すること」です。訪れたお客さんには、少しでも長く滞在してもらえよう、市民団体や事業者の皆さんとともに、魅力ある観光のメニューづくりに励んでいます。

昨年の舞鶴若狭自動車道全線開通により、都市と小浜とを結ぶルートが、かなり整備されました。伝統や自然など小浜の良さを都市部へ発信し、人を呼び込み、道の駅・海の駅・まちの駅の3駅を核としたオール小浜の「おもてなし」体制を築いていきたいです。



おばま観光局  
取締役企画経営部長  
あさくら まさひろ  
朝倉 昌也 さん（60歳）



市民協働

合い言葉は「協働」  
オール小浜体制で地域を元気に



▲上根来プロジェクトで地域活性化

市民主導でまちづくりを推進していくために、市民からボランティアを募集して、観光局内に設置されたのが「まちづくり市民幹事会」です。幹事会は目的ごとの部会に分かれて、市民目線でのアイデアを実践し、観光局がサポートすることで、活気あるまちづくりにつなげてきました。

アイデアを形に  
市民が主役のまちづくり

市民幹事会からは、市民主導による新たなまちづくりプロジェクトが誕生しています。体験部会が立ち上げた「上根来プロジェクト」では、自然や集落という上根来区の観光資源に注目し、地域活性化の取り組みを展開。雪で作る天然の貯蔵庫「雪室」を使った新たな特産品の開発や、古民家のゲストハウスの活用、自然エネルギーをテーマにした体験型イベントの開催など、活動は多岐に渡り、にぎわいの創出につながっています。また、市民実行委員会が、道の駅で毎月開催する「ミチフリマーケット」は、口コミで噂が広がり、現在は市内外から約10団体が出店。観光局や行政との協働で、音楽ライブや体験イベントも同時開催するなど道の駅の目玉の一つとなっています

▼道の駅で開催のミチフリマーケット



もっと住みやすいまちを目指して

今年で6年目を迎えるおばま観光局。平成27年度は、「食」や「まち歩き」をテーマにした観光商品開発、さとうみ体験プログラムなどの拡大、既存の観光メニューのさらなる充実などが計画されています。また、4月から食事処「濱の四季」(川崎三丁目)の指定管理を受託したことで、道の駅とともに、地域の観光施設を生かした誘客への取り組みが期待されています。

トピックス Topics

「住みやすさ」ランキングで小浜市が5位に！

経済産業省が市区町村の「住みやすさ」を金銭価値に置き換えたランキングを発表。小浜市は全国1,741市区町村中5位(県内1位)に選ばれました※全国1位は島根県松江市。このランキングは、「生活利便性、や「自然環境、など22項目への優先順位と金銭価値を1万人へのアンケートにより算出。その数字を基に、標準的な家庭だと全国の市区町村それぞれにいくらの価値を感じるのかが試算され作られたものです。

都市間競争が激しさを増す中、地域住民・民間事業者・行政が一体となった「オール小浜体制」で、観光を軸とした魅力ある地域づくりを進め、最終的には、Iターン者やUターン者が移住を希望する「住みやすいまち小浜」の確立を目指していきます。

People



ミチフリマーケット実行委員会  
新委員長 **中野 正勝** さん(33歳・山手二丁目)  
平成23年に友人と同実行委員会を立ち上げ。以後、毎月道の駅を会場にしたフリーマーケットを開催。おばま観光局市民幹事会委員

平成23年5月から道の駅を会場にしたフリーマーケットを市民ボランティアで運営しています。小浜にあまりなかった「定期的」で「誰でも参加できる」イベントをやってみたという思いからスタートしました。今年で5年目を迎えますが、おかげさまで道の駅に定着したイベントとして、3月から11月の毎月第3日曜日、市内外から約10団体・個人が出店。主に衣類・子ども服・雑貨、おもちや、食器などが販売されています。

地元の人からも「毎月楽しみにしてるよ」という声をいただいています。買い物だけでなく、フリーマーケットや道の駅が、「人と人をつなぐ場所」になればいいなと思います。道の駅とともに歩んできたイベントなので、観光局と連携して、今後とも長く続けていきたいです。地元の子どもたちが、将来小浜に帰ってきたい、この土地で生きたい、と思えるような、魅力ある地域づくりを目指して、がんばっていききたいですね。

魅力ある地域づくりを目指して

お客様を笑顔にできるよここ

おばま観光局では、「濱の四季」の指定管理者になったことをきっかけに、4月4日に同所をリニューアルオープンしました。営業時間を11時から21時まで(水曜定休)に拡大するなどサービスの充実に努めています。「地産地消」や「スローフード」の推進というこれまでの理念を継承しながら、総勢15人で運営しています。特に設立当初からのスタッフが持つ食に関する知恵や経験を生かして、より良いお店にしていきたいです。

おもてなしの基本は「笑顔」だと思います。笑顔でお客様をお迎えして、接客を通して笑顔にできるような心がけています。お客様から、「おいしかったよ」、「小浜に来て良かった」という言葉をいただいたときに、一番喜びを感じます。カフェメニューの導入や新鮮な魚介類を生かした創作料理の提供なども検討しています。観光のお客様はもちろん、地域の皆様からも愛されるお店を目指したいですね。



お食事処 御食国若狭おばま「濱の四季」  
店主 **楠 昌子** さん(53歳・城内二丁目)  
平成23年4月から道の駅「若狭おばま」のフードコート主任として勤務。平成27年4月から「濱の四季」の店主として運営に取り組む